

資料 3. 伊勢赤十字病院産婦人科研修プログラム例

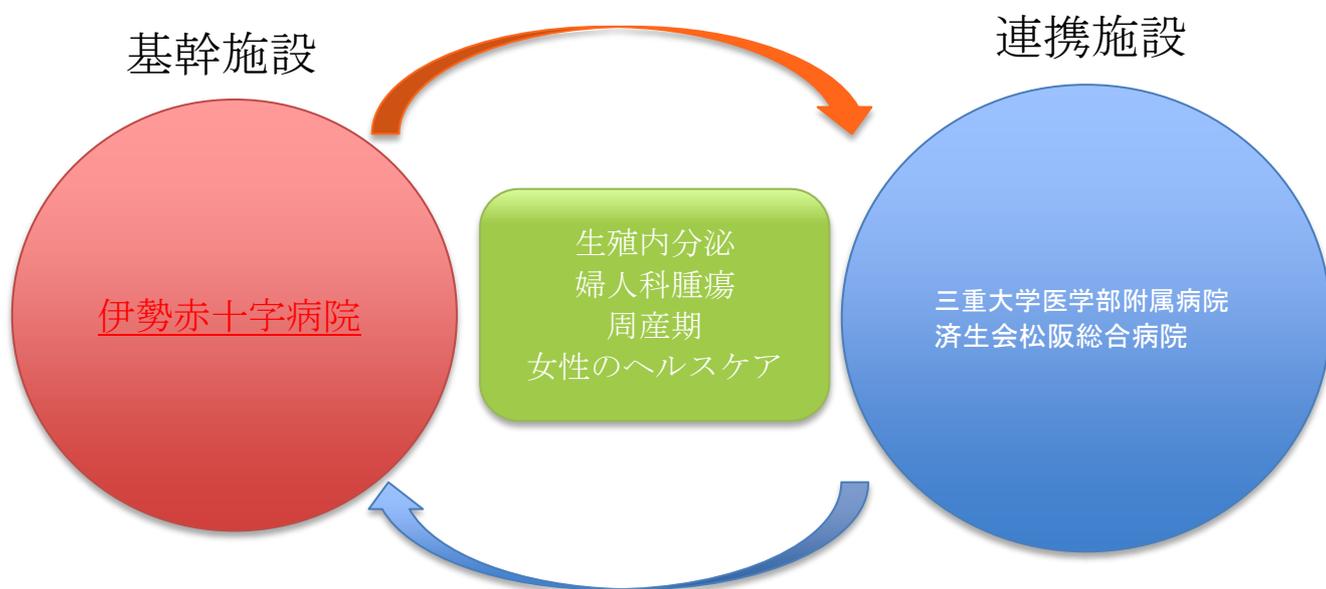
A. 伊勢赤十字病院産婦人科研修プログラム 週間スケジュール

	午 前		午 後
月曜日	8:30～カンファレンス 外来診療、病棟回診		外来診療、病棟回診 16:00～術前カンファレンス 17:00～ 周産期検討会、その後抄読会
火曜日	8:30～カンファレンス 病棟回診	9:30～ 手術	手 術
水曜日	8:30～カンファレンス 外来診療、病棟回診		外来診療、病棟回診
木曜日	8:00～テレビ会議 8:30～カンファレンス 病棟回診	9:30～ 手術	手 術
金曜日	8:00～テレビ会議 8:30～カンファレンス 外来診療、病棟回診		外来診療、病棟回診

時間外においても、救急搬送患者、緊急手術、救急外来などに適宜対応し、研修を行う。

B. 伊勢赤十字病院産婦人科研修プログラムの概要

伊勢赤十字病院専門研修施設群

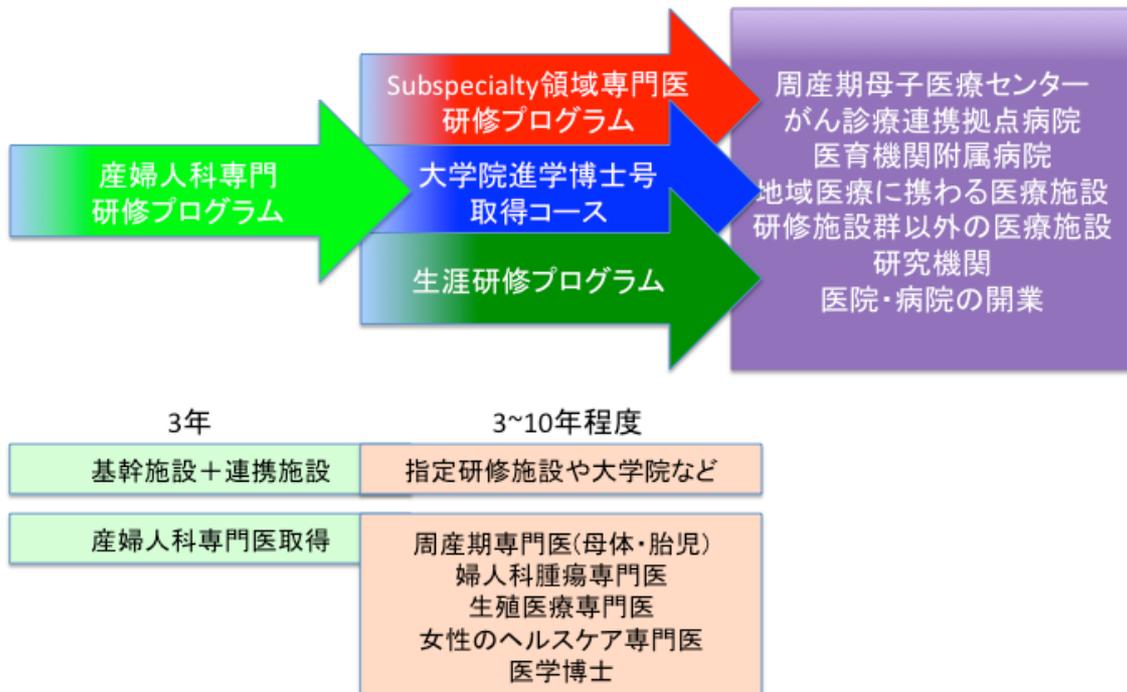


伊勢赤十字病院産婦人科研修プログラムでは伊勢赤十字病院婦人科を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたる。これは地域医療を経験しその特性の習熟を目的とし、高度かつ安定した地域医療の提供に何が必要かを勘案する能力がある専門医の育成に寄与するものである。大病院では経験する事が少ない性病、性器脱、避妊指導、モーニングアフターピルの処方と服薬指導などの習熟にも必要である。指導医の一部も施設を移り施設群全体での医療レベルの向上と均一化を図ることで専攻医に対する高度に均一化された専攻医研修システムの提供を可能とする。連携施設には得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で生殖医療、婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修する事が可能となる。

産婦人科専攻医の研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各施設の状況、地域の医療体制を勘案して、伊勢赤十字病院産婦人科専門研修プログラム管理委員会が決定する。

C 伊勢赤十字病院専門研修プログラムの具体例

専門医制度研修プログラムとその後のSubspecialty研修などと将来像の概要



産婦人科研修プログラムは、専攻医は3年間で修了要件を満たし、ほとんどは専門医たる技能を修得したと認定されると見込まれる。修了要件を満たしても技能の修得が足りない場合、病気や出産・育児、留学などのため3年間で研修を修了できなかった場合は1年単位で研修期間を延長し、最終的に専門医を名乗るに足る産婦人科医として、修了年の翌年度（通常後期研修の4年目）に産婦人科専門医試験を受検する。専門医を取得して産婦人科研修プログラムの修了と認定する。この4年目は産婦人科専門医取得とその後のサブスペシャリティ研修開始の重要な時期である。

研修は基幹施設である伊勢赤十字病院ならびに三重大学附属病院産婦人科その他の連携施設にて行う。6か月～1年ごとのローテーションを基本とする。基幹施設においては、婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児異常、産科救急などを中心に研修する。研修の長所は、一般市中病院では経験しにくいこれらの疾患を多数経験ができることである。また地域医療に関しても経験できる。3年間の研修期間のうち1年6か月から2年間（少なくとも1年間）は基幹施設で最重症度の患者への最新の標準治療を体験する。一方、連帯病院においては、高度な不妊治療、生殖医療を中心に幅広く研修を行う。一般婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理を中心に研修する。また新生児の管

理に関しても研修を行う。外来診療および入院診療は治療方針の立案、実際の治療、退院まで、指導医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となる

D. Subspecialty 専門医の取得に向けたプログラムの構築

伊勢赤十字病院産婦人科研修プログラムは専門医取得後に以下の専門医・認定医取得へつながるようなものとする。

- ・日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- ・日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医
- ・日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
- ・日本臨床細胞学会 細胞診専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医

専門医取得後には、「Subspecialty 産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科 4 領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示する。

E. 初期研修プログラム

伊勢赤十字病院産婦人科専門研修プログラム管理委員会は、総合臨床教育センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来産婦人科を目指すための初期研修プログラム作成にもかかわる。

伊勢赤十字病院専門研修プログラム例

1) 基幹施設→連携施設→連携施設研修コース

産科人科専門医療人育成研修プログラムの概要(例 1)



予定経験症例数

研修終了要件(一部改変)	伊勢赤十字病院	〇〇病院	××病院	経験予定数(必要終了要件数)
経腔分娩(立ち会い医)	60	100	100	260(100)
帝王切開執刀	50	15	15	80(30)
帝王切開助手	10	10	10	30(20)
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開術執刀医・助手	5	3	3	11(5)
子宮内容除去術・子宮内膜全面搔爬術執刀(稽留流産を含む)	40	20	20	80(10)
腔式手術(子宮頸部円錐切除術・子宮頸管縫縮術を含む)執刀	40	5	50	95(10)
子宮付属器摘出・卵巣嚢腫摘出術執刀(開腹、腹腔鏡)	40	10	10	60(10)
単純子宮全摘出術執刀	20	10	10	40(10)(開腹手術5例以上を含む)
浸潤癌(子宮頸癌、体癌、卵巣癌、外陰癌)手術助手	20	5	5	30(5)
腹腔鏡下手術執刀・助手	60	40	20	120(15)
不妊症の原因・治療に携わった経験	5	30	50	85(5)
採卵・胚移植の術者・助手あるいは見学者として参加	0	20	50	70(5)
思春期や更年期以降女性の愁訴に対する診断・治療経験	20	10	10	40(5)
OC・LEP 初回処方時の有害事象説明ないし説明助手経験	20	10	10	40(5)

2) 基幹施設→連携施設→基幹施設研修コース

産科婦人科専門医療人育成研修プログラムの概要(例2)



予定経験症例数

研修終了要件(一部改変)	伊勢赤十字病院	〇〇病院	伊勢赤十字病院	経験予定数(必要終了要件数)
経膣分娩(立ち会い医)	60	100	60	220(100)
帝王切開執刀	50	15	30	95(30)
帝王切開助手	10	10	30	50(20)
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開術執刀医・助手	5	3	5	13(5)
子宮内容除去術・子宮内膜全面搔爬術執刀(稽留流産を含む)	40	20	40	100(10)
腔式手術(子宮頸部円錐切除術・子宮頸管縫縮術を含む)執刀	40	50	40	130(10)
子宮付属器摘出・卵巣嚢腫摘出術執刀(開腹、腹腔鏡)	40	10	30	80(10)
単純子宮全摘出術執刀	20	10	15	45(10)(開腹手術5例以上を含む)
浸潤癌(子宮頸癌、体癌、卵巣癌、外陰癌)手術助手	20	5	20	45(5)
腹腔鏡下手術執刀・助手	60	5	60	125(15)
不妊症の原因・治療に携わった経験	20	20	20	60(5)
採卵・胚移植の術者・助手あるいは見学者として参加	0	50	0	50(5)
思春期や更年期以降女性の愁訴に対する診断・治療経験	20	10	20	50(5)
OC・LEP 初回処方時の有害事象説明ないし説明助手経験	20	10	20	50(5)

4) 伊勢赤十字病院産婦人科初期研修プログラム

1. 伊勢赤十字病院のすべての研修医は三重大学医学医療系産科婦人科学が主催する学会、研究会、産婦人科卒後研修セミナー等に参加でき、各種学会発表や論文作成などができる。

2. 産科特別プログラム：産婦人科医師を目指す初期研修医のためのプログラム。初期臨床研修期間中、最長6か月間を産婦人科研修に充てることが可能。産婦人科では伊勢赤十字病院内において周産期、婦人科腫瘍の疾患の管理(手術の執刀を含む)を隈無く経験し、スムーズに3年目以降の産婦人科専攻医の研修に移行する。伊勢赤十字病院の初期臨床研修プログラムは集中管理方式の病院群を構成しているため、三重大学附属病院をはじめとする複数の総合病院において麻酔科、内科(代謝内分泌内科、腎臓内科)、外科(消化器外科、腎泌尿器外科)、小児科(新生児科NICU勤務)等、産婦人科と関連の深い科を選択して研修することが可能である。

必修内科

必修救急

選択必修

選択

1年目

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
産婦人科			必修内科		必修内科		放射線 診断	診断 病理	麻酔科		

2年目

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
NICU		外科		精神科		産婦人科			地域 医療		

3. 産婦人科ベーシックプログラム：全ての初期研修医のためのプログラム。初期臨床研修期間中、最長3ヶ月間の産婦人科研修が可能。産科と婦人科の各単独研修も選択できる。全ての医師が身につけるべき産婦人科のプライマリケア技能の研修が可能。